

1 編集委員会 尾本きよか
平成27年度は、学会誌出版に向け、委員会を開催し、7月には第4巻3号を発行した。平成28年1月には第5巻1号を発行した。

2 財務委員会 矢形 寛
なし

3 教育委員会 田中久美子
JABTS 34 (H27.5日超医との共同開催)
・教育委員会開催
・教育委員会企画 ワークショップ「線維腺腫」
H27.6 第4回超音波ガイド下インターベンション講習会
第23回日本乳癌学会学術集会との共催にて開催(東京)。
定員を上回る申し込みがあり、2日間で64名が受講。
JABTS 35 (H27.9)
・教育委員会開催
・教育セミナー開催(テーマごとのレクチャー、講師は教育委員主体)
・教育委員会企画 ワークショップ「粗大石灰化」

4 広報委員会 橋本 政典
・学会誌のPDF版の掲載
・事業計画の掲載
・HPから東日本大震災のお悔やみを削除(5月)
・学術集会の終了処理など
・新理事など更新・役員一覧の改訂
・新理事長挨拶更新(日本語・英語)
・古くなったバナー・学術集会のリンク切れの修正
・委員会・研究部会と責任者更新
・学会誌最新号掲載
・幹事一覧のページ作成(9/30)
・委員会/研究部会構成員のページ作成(9/30)
・H26年度活動報告UP

5 会則委員会 古川まどか
学術委員会での討議にオブザーバーとして参加し、各種委員会の規約の見直し、活動内容の調整、各種研究部会の規約の見直し、申請方法、活動内容に関する調整を行った。

6 国際委員会 東野英利子
JABTS34 5月23日(土)
国際委員会企画「アジア各国の乳腺・甲状腺超音波検査の現状と日本に望むこと」
IC-01 STATUS OF BREAST CANCER IN NEPAL AND ITS

CHALLENGES

Birendra Raj Joshi, DMRD (President, Breast & Thyroid Society of Nepal [BATSON]) presented by Dr.Takada

IC-02 Current status of breast and thyroid ultrasound in Bangladesh

Shamin Asan (Director/Associate Professor, Institute of Nuclear Medicine & Allied Sciences, Cox's Bazar Dhaka Medical College and Hospital)

IC-03 The current status of Breast and Thyroid ultrasound in Mongolia

Narantungalag Magsarjav (Department of Radiology, First Central Hospital of Mongolia)

IC-04 Current status of thyroid ultrasound in China

Desheng Sun (Department of Ultrasonography, Reking University Shenzhen Hospital)

IC-05 Breast ultrasound in Japan

渡辺 隆紀 (仙台医療センター乳腺外科)

25th April 2015にネパールで発生した大地震に対し、JABTS34(UW2015)で寄付を募り、日本ネパール会と相談し、ネパール政府に搾取されない民間レベルでの支援を目標にして、Ms. Safala Rajbhandariに高田先生が直接手渡す形で寄贈しました。

7 乳腺用語診断基準委員会 加奥 節子
2015.3. BC-02研究の成果を国際学会にて発表(WFUMB, 米国) 委員5名で分担し、それぞれが口演で発表した。

2015.7. BI-RADS小委員会発足

BI-RADSの読影システムの理解を深めることを目的とし、JABTS35において、その問題点等について解説した。

2015.10. 乳房超音波診断ガイドライン改訂第3版3刷発刊
診断用語の改変した部分、適切でない文言を修正して発刊した。

多施設研究等

・BC-04 継続中(登録機関1年間延長)

現在1,400例が登録され、読影の項目・読影方法について、詳細な検討を行っている。

8 甲状腺用語診断基準委員会 鈴木 眞一
1)甲状腺超音波ガイドブック改訂3版 編集作業
2)甲状腺超音波ガイドブック改訂2版 増刷
3)甲状腺結節に対するドプラエコーの有用性についての前向き試験に向けて
—今後の前向き研究のプランについて— (TC-01)
4)福島県県民健康調査甲状腺検査への支援協力
5)福島県甲状腺超音波資格認定に向けた講習会、試験への

協力

6)第58回日本甲状腺学会での超音波ハンズオンセミナーへの講師派遣

7)日本超音波医学会超音波講習会への座長, 講師派遣

8)甲状腺結節診断における縦横比の検討

9 | 倫理委員会 | 森島 勇

JABTS35教育講演

「新しい倫理指針とその対応」

東北大学病院臨床研究推進センター 高野忠夫先生を, 平成27年9月19日(土)に倫理委員会として企画した。

その他には, 理事会からの審議事項がなく, 活動はなかった。

10 | 利益相反委員会 | 大貫 幸二

1)本学会の指針に基づき会員の利益相反の状態について監視した。

(ア)学術集会の演者, 機関誌の著者については, 特に違反の報告はなかった。

(イ)役員等の利益相反自己申告書の中で, COIの申告があった2名について個人情報の保護に留意し, 委員長と委員のダブルチェックで内容を確認したが(第35回学術集会時), 特に問題はなかった。

2)第35回学術集会時に東北大学の高野忠夫先生による教育講演「新しい倫理指針とその対応」が行われ, その演者選定に協力した。

11 | 学術委員会 | 椎名 毅

1. 研究部会の設置

27年度の研究部会の申請を受けて, 研究部会の4件の終了と, 9件の新規設置について審議し, その結果を理事会に答申した。

2. 学術委員会内規・細則の制定

委員会(平成27年8月1日 於 聖路加国際病院)にて, 研究部会の設置, 活動, 継続の審査法等の改訂について協議し, その結果を定めた内規および細則を制定した。

3. 学術に関する下記の事項等について協議した。

1)ガイドライン, ガイドブックの電子化について

2)出版社からの, ガイドラインに掲載図の転載の有償化について

12 | 乳がん検診研究部会 | 坂 佳奈子

1. 昨年度より活動していたが, 乳房超音波ガイドラインの中の要精査基準を英訳し, 日本超音波医学会雑誌(英語版)に投稿した。オンライン版43-2号(2016年2月16日発行)に掲載された。

2. 今後, 超音波検診における技師の労働環境などの改善を

目的とした乳房超音波検診に関わる技師の労働環境のアンケート調査を2016年2月~3月末まで実施。結果についてはJABTS37で発表する予定である。

13 | インターベンション研究部会 | 矢形 寛

1)研究部会会議

平成27年5月24日(第34回JABTS 東京)

平成27年7月3日(第23回日本乳癌学会 東京)

平成27年9月19日(第35回JABTS 岩手)

2)学会企画

『ケースカンファレンス一次の一手は一』

平成27年5月24日(第34回JABTS 東京)

座長: 位藤俊一, 五味直哉

ミニレクチャー 腋窩リンパ節のためのインターベンション

中村力也 千葉県がんセンター 乳腺外科

ケースカンファレンス 左乳癌術前に対側腋窩に腫瘤を認めた1例

國分優美 がん研有明病院 画像診断部

ケースカンファレンス 構築の乱れを呈した2例

佐藤洋子 湘南鎌倉総合病院 乳腺外科

平成27年9月19日(第35回JABTS 岩手)

座長: 矢形 寛, 五味直哉

ミニレクチャー 穿刺吸引細胞診: 確実な検体採取手技を

得るためのポイント

何森亜由美 高松平和病院 外科

ケースカンファレンス

梅本 剛 筑波メディカルセンター病院

診療部門 乳腺科

3)JABTS学会誌掲載論文 『誌上ケースカンファレンス: 次の一手は』

第4巻 第1号 2015年1月発行

前医のVABにて小葉内新生物と診断された非腫瘍性病変の診断

広利浩一(兵庫県立がんセンター 乳腺外科), 他

第4巻 第3号 2015年7月発行

ミニレクチャー: 腋窩リンパ節診断のためのインターベンション

中村力也(千葉県がんセンター乳腺外科), 他

4)乳腺超音波ガイド下インターベンション手技マニュアル改訂準備

5)教育委員会主催 インターベンション講習会 協力

2015年7月3, 4日(第23回日本乳癌学会 東京)

14 | バーチャルソノグラフィ研究部会 | 明石 定子

1)研究部会(FUSION01試験)の遂行

* 乳房MRI-detected lesion(MRI偶発造影病変)検出における超

音波fusion技術 (Real-time virtual sonography / Volume navigation) の有用性の確認(多施設共同前向きコホート研究) FUSION 01 study 討議を重ね、プロトコルを作成。2014年7月16日愛知医大IRB通過。3年間で30症例の登録を目指した。その他IRB通過は聖フランシスコ病院, 山口大学, 岐阜大学, 静岡県がんセンター, 岡山大学, 昭和大学の7施設。2016年2月5日 32例症例を登録して, 登録終了した。JABTS36にて結果発表予定, 論文化も予定している。

2) 研究部会会議の開催

* 第34回JABTSに合わせ2015年5月24日8時より開催 高輪プリンス

FUSION01試験症例検討を行った。

* 第35回JABTSに合わせ2015年9月19日 8時より岩手県アイーナにて開催

FUSION01試験症例検討を行った。

15 フローイメージング研究部会 平井都始子

1. 「乳房超音波診断におけるカラードプラ判定基準作成およびその有用性に関する多施設研究(JABTS BC-04)」で, 昨年末で目標の1,400例が集まり症例登録を修了。画像中央判定を進めていくため, 乳腺用語診断基準委員会の委員と協力して研究のプロトコル作成や評価基準統一のためのミーティングを行った。

2. 2015年1月~2月にかけてJABTS会員に乳房造影超音波検査に関するアンケート調査を実施。

2015年乳房造影超音波検査アンケート調査・中間報告 (JABTS34一般演題)

2015年乳房造影超音波検査アンケート調査・最終報告 (JABTS35一般演題)

3. 乳房造影超音波に関する有用性や研究テーマに関する検討。

JABTS34でのミーティングで検証を進めるテーマとして以下を抽出。

1. 乳房造影超音波検査手順と報告形式の標準化。
2. 造影パターンの視覚評価基準の標準化, 病理所見と比較して。
3. 時間輝度曲線を用いた定量的評価の可能性に対する検討。
4. MRI検査などで指摘された病変に対する2nd look USに乳房造影超音波を用いることの有用性の検討。
5. 広がり診断における乳房造影超音波検査の有用性, MRI検査や病理検査と比較した検討。

それぞれのテーマに対して, 研究メンバーを募り代表者を選定。

代表者を中心にプロトコルの作成と問題点抽出を行うこととした。

JABTS35のミーティングで上記テーマに関して検討。

1. 各テーマ毎にプロトコル案を検討, 問題点を抽出して対策を検討。

2. 多施設での検討を前提に, まず代表者施設でプロトコルに対する倫理委員会での承認申請を進めることとなった。

3. 造影パターンの視覚評価基準の標準化に向けて, 代表的な症例を用いてメンバー間での評価の一致・不一致の検討を行った。

16 BC-03研究部会 中島 一毅

最終的に, 研究参加6施設にて253例が登録された。

昨年度までに中央判定による分類が終了しており, 現在, 解析中である。

17 乳房超音波エラストグラフィ研究部会 椎名 毅

乳房超音波エラストグラフィのガイドラインの改訂作業に向けて, 日本超音波医学会と連携して, 論文を中心とした関連研究の動向の把握と改訂版で執筆すべき項目の整理を行った。

18 Us Hands On研究部会 白井 秀明

これまでJABTS精度管理委員会が中心となって行われていたHands on講習会を研究部会として引き継ぎ, 今後ともJABTS学術集会などでの講習会の定着化とそれによる効果の判定および具体的な実施方法や評価方法について検討すべく, 第34回JABTS(東京都)と第35回JABTS(岩手市)にて研究部会会議を開催した。

Hands on講習の実際は, 第34回JABTS in Tokyoにおいて第1日目にUS Hands-on講習会が, 「Comprehensive Ultrasound Hands On」と題して, 超音波(US)によるスクリーニング検査において病変を見落としなく検出するための走査手技と, 探触子操作によって得られる鮮明なB-mode画像の描出方法の習得を主な目的として行われた。方法はまず川崎医大の中島先生による全体講義で, 目的や概略の講義の後, 受講者に対し, 過去の本学会学術集会において, ハンズオンの講師としてHands on部会員によるほぼマンツーマンの指導が行われた。今回は講習効果の判定を客観的に評価するため, 講習前後のB-mode画像を設定項目ごとにスコア化して判定した。その結果は, 講習受講後に明らかな画像の改善が認められた者を確認した結果, 8割以上の受講者が良好であったとの結果を得た。またその効果を詳細に分析した結果, 特にUS経験5年未満の者が多くを占めており, このような初学者にはその教育効果が高いものとする。以上より, US Hands-onは本会において, 有用な講習会であることを報告する。

19 精度管理ファントム研究部会 桜井 正児

・毎日行う画像劣化精度管理用の小型のファントムが完成した。

・完成したファントムを使用して部員の6施設で実際に使用し、ファントムの問題点を抽出し改良点を検討した。

1. プローブがファントムに直角に接触していることが分かる目印が必要。
2. 撮像範囲に内蔵の温度計が入らないようにしたい。
3. ターゲットの深さは撮像しやすい1cmとする。
4. 耐久性があり精度のよい温度計にしたい。
5. ドットターゲットが入っていると分解能が分かると誤解を招くため、ドットターゲットは削除し、グレースケールターゲット3種だけとする。
6. 外装を透明にしターゲットが見えるようにする。

以上の問題点を解決した新たなファントムが27年度中に完成する予定となった。

・ファントム画像の評価方法に関して検討した。

1. 毎日の評価は目視で行い、月に1回デジタル評価を行う。
2. デジタル評価は自動的にデジタル値を測れるような工夫が必要。

デジタル評価に関しては遠藤先生から岐阜大学の藤田先生にお願いし、篠原先生が担当していただけることとなった。

・ファントム画像の保管方法に関して検討した。

画像の保管に関しては3か月間保管し、そのあとは順次消していく。月に1度のデジタル評価時の画像だけを残し、残りは最新の3か月分の画像を残し、消すこととした。

・論文に関して検討した。

新たな小型のファントムを作成し評価を行った論文が完成したので、部員で検討した。一部修正し、JABTSの会誌に投稿することが決定した。